



「床几山配水池にバイパス(迂回路)敷設」 大正14年(1925年)

大正13年6月、水道施設の拡張を計画、配水池にバイパスを敷設すべく市公債の発行を併せて内務省、県に認可申請を行った。

大正7年の給水開始以来わずか6年目のことだが、この間の大正10年、水の消費量は1日最大給水量約30,270石を早くも突破。

加えて翌11年と12年には冬季の寒気ことにきびしく凍結の防止に放流を行う一方、夏季は水の濫費に苦しみ、しばしば時間給水、制限給水を実施。

13年の夏には、実に70日間におよぶ時間断水を行った。

このため、応急給水能力の増進を図るため、バイパスの敷設に踏み切った。

計画書によると、当面、給水能力のアップには濾過池の増設、沈澄池の新設、配水池のバイパス敷設の3点を急務としてとらえながらも財政上の理由から、今回はバイパス一つに止め、14年に敷設を完了し、15年にはポンプ装置も新たに設けた。